

受講者は模擬製造ラインで「気づき」を培う(昨年度の実習より)



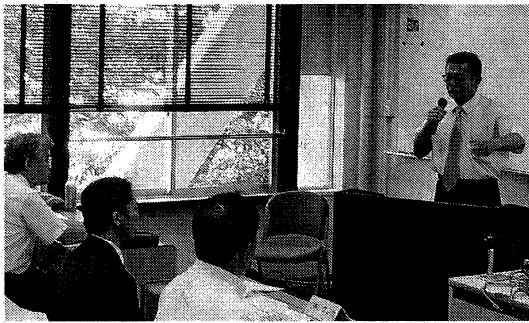
キーワードは「気づき」

ニュース
特技隊

「工場長養成塾」名大開講

人材育成支援講座「第1回工場長養成塾」が名古屋工業大学(名古屋市昭和区)でこのほど開講された。同講座は約半年にわたって工場見学や模擬ライン作業などのカリキュラムを経験して優れた工場長の育成を目指す。入塾式には24社の工場長と製造部門の管理責任者が「塾生」として集まった。(広)

現場管理のプロ育成



入塾式であいさつをする松井信行名工大学長(右端)

「工場長養成塾」は約半年、164時間を掛けて「工場長基本講座」や「ヒューマンエール」などを開講。中部地方をけん引する企業の出身者が講師を担当してカリキュラムを構成する。豊田自動織機の工場見学やデモンストラターの模擬ライン作業の体験実習なども行われる。

9月21日に行われた入塾式には企業やチュータなど約80人が参加。塾生は「他社の工場を見学できる機会ほとんどない。いい勉強になるはず」と胸を高鳴らせる。また「この講座を通して現場と上との連携強化に持つ

人材底上げ24社参加

同塾は昨年度に中部経済産業省が行った「産学連携製造中核人材育成事業」が前身。中部地区に集まる製造業全体の底上げを狙って16社が受講してテストランしていた。その後テーマの追加やセッションの充実を図って

「第1回工場長養成塾」となった。今回は24社の募集に34社が応募。昨年参加した16社のうち半分の8社が新たに人材を送り込む。講師を構成する。豊田自動織機の工場見学やデモンストラターの模擬ライン作業の体験実習なども行われる。

「第1回工場長養成塾」は約半年、164時間を掛けて「工場長基本講座」や「ヒューマンエール」などを開講。中部地方をけん引する企業の出身者が講師を担当してカリキュラムを構成する。豊田自動織機の工場見学やデモンストラターの模擬ライン作業の体験実習なども行われる。

と実績ともに期待を一身に浴びる。同塾事務局は「ものづくりの地域とつながる」をテーマに「標準化」「スモール化」をキーワードに「気づき」をキーワードに工場長自ら現場の問題に気づいて、学び得た経験を自社の工場に当てはめることで問題の発見能力を高めて行動していくのが目標だ。また経営者に向けた「エグゼクティブ・プログラム」も開講され現場と経営者の意思疎通や交流を促進する。

「気づき」をキーワードに工場長自ら現場の問題に気づいて、学び得た経験を自社の工場に当てはめることで問題の発見能力を高めて行動していくのが目標だ。また経営者に向けた「エグゼクティブ・プログラム」も開講され現場と経営者の意思疎通や交流を促進する。

「気づき」をキーワードに工場長自ら現場の問題に気づいて、学び得た経験を自社の工場に当てはめることで問題の発見能力を高めて行動していくのが目標だ。また経営者に向けた「エグゼクティブ・プログラム」も開講され現場と経営者の意思疎通や交流を促進する。